

子育てで大事な 親の「感受性と応答性」



先生のご紹介

増田 彰則
心療内科 増田クリニック

PROFILE

鹿児島市・増田クリニック院長。さつま町出身。内科学、心療内科を専攻。中でも疲労、痛み、うつ病、不登校、小児心身症、神経症などが専門です。

親への安心感、信頼感を育む

「感受性」と「応答性」

子どもが泣いてただをこねるとイライラして怒ったり、時には放つたらかしてその場を離れたりする
ことがありませんか。子育てや家事、仕事で疲れている親の気持ちはよく分かります。

子どもが泣きわめいている時は何か助けを求めている時です。その時、親がすぐに反応して子どもの要求に応じてあげると機嫌がなおりますね。子どもが助けを求めた時、親が笑顔で応えて、愛情で包み込んであげると親へのゆるぎない安心感と信頼感が育まれていきます。それがスムーズにいくためには、親が子どもの欲求を感じとる「感受性」と、それに速やかに応じる「応答性」を備えていることが必要です。

「感受性」とは、子どもが何を求めているのか、何を感じてどんな気持ちでいるのか、何故泣いているのか、どうして怒っているのかを感じとる力です。そして、「応答性」とは、子どもが求めているこ

とを満たしてあげること、子どもの声やしぐさに反応すること、泣いている時や困っている時にしっかり向かい合い手を差し伸べてあげることです。

子どもが泣いて助けを求めた時、親の都合や機嫌によって応えたり、応えなかったり、さらに怒ったり、子どもの目の前から居なくなったりすると子どもにどのような反応がみられるでしょうか？



自分の求めに応じてくれないと泣き叫んで親の後を追いかけて、親が折れるまで必死に「抵抗」することがありますね。子どもが泣き疲れてあきらめるまで応えてあげ

ない場合、子どもの心が深く傷つくことになりません。いつも自分を目を向け、助けてくれるはずの親が応えてくれなかったことで悲しくなり、不安に襲われるのです。

それが続くと、親の手をわずらわせないように我慢して「手のからないいい子」になろうとします。親に褒められ、好きと言ってもらおうように進んで手伝いをしたり、自分のことをするようにになります。しかし、欲求が満たされず我慢することが何年も続くと、それに耐えられず体調不調を訴えることが増えます。さらに子どもの気持ちを受け止められず怒ったり、否定するようなことを言い続けると、子どもは自分が悪い子だから怒られていると自分を責めて「自己否定」するようになっていきます。挙げ句の果て自信を失い、マインス思考が定着して思春期に入る頃から精神的に苦しむことになります。

親はしつつけとして時には厳しく接することも必要ですが、子どもに寄り添った上で応えてあげられ

ること、あげられないことをよく説明し納得させることが大事です。その時に必要とされるのが子どもに対する感受性と応答性であり、それを日頃から磨いておくことが求められます。

ネット・ゲーム依存症の家族会
毎月第3木曜日【参加料】1回1,000円【時間】10:00~12:00
【場所】ケアサポート清瀬【お申込】099-201-3600
月1回の、ネット・ゲーム依存の子どもをかかえた親の会です。
依存についての知識と対応の仕方を学びます。
参加希望の方はお電話ください。

http://www.myclinic.ne.jp/masuda_cli/pc/
増田クリニック

TEL. 099-219-1155

〒892-0845 鹿児島県鹿児島市樋之口町2-24

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	/	○	○	○	/
14:30~18:30	○	○	/	○	○	○	/

受付時間：午前8:30~12:00 午後14:00~18:00
休 診：水・日・祝・お盆・正月

増田クリニック
携帯版HPに
アクセス
できます▼

